



発行日：平成 28 年 1 月  
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

### ◆第31回川部会WGを開催しました！

12月18日（金曜日）に第31川部会WGが豊田市職員会館にて開催されました。今回のWGでは、今年度の白浜地区モニタリング調査結果と豊田市矢作川河川環境活性化プランについて説明していただき、意見交換を行いました。

日時：平成 27 年 12 月 18 日（月）13:30～16:00  
会議場所：豊田市職員会館 2F 第1会議室  
参加者：20名（事務局含む）



### ◆主な意見交換内容

#### 1. 本日の話し合いでわかったこと

##### ■白浜地区モニタリング調査結果について

- 大同大学鷺見研究室の皆様より、今年度の白浜地区モニタリング成果について報告いただきました。
- 白浜工区は2014年時点では植生が少なくほとんどが裸地でしたが、2015年現在ではヤナギが多く繁茂しており、2014年5月～9月の約4か月でヤナギの高さは50～100cm程度成長しています。下流側のワンドに沿った列状のヤナギ群落は、2012年～2013年に種子が水際に漂着し列状に生育したものの、2013年の出水により一旦土砂で埋まった群落であると推測されます。
- ワンド周辺では基本的に砂（2～0.075mm）が多く、特に堤防側でその傾向が強く表れています。今年度の出水はそれほど大きくなかったため、人工掘削後のワンド内にはやや砂が堆積する程度の変化となっています。一部のヤナギ群落が土砂を捕捉する傾向がみられるため、今後も引き続き観測を行います。
- ワンド上流の湧水は、加茂川から流入していることがわかりました。湧水が多い日には1日程度でワンド内の水が入れ替わっていることがわかりました。湧水の多少と水温との関係は明確には確認できませんでした。
- 白浜工区周辺の縦断的な水位の変動状況を確認したところ、下記の4点が把握できました。今後は、iRICにより縦断水面形の挙動を再現し、工区周辺の土砂の動きなどモニタリング結果との関係を把握していく予定です。
  - ・下流境界条件である頭首工は、取水水位一定運用。
  - ・平水時の水面形は、39.2kの勾配転換点より下流湛水区間に入るとほぼフラット。
  - ・高水時の水面形は、39.2k付近で屈曲する。上流瀬淵区間は通常の変動。下流湛水区間は水面勾配が発生。
  - ・水位変動幅は、観測上流端から下流端に向かって圧縮される。



##### ■豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

- 本プランは、有識者、河川管理者、利水団体等の組織する委員会により検討されており、家下川の合流地点から矢作ダムまでの範囲を5つの検討区間に分類し、①自然環境、②街づくり、③流域管理、④人の利用の4つの視点からプランを提案するものです。
- 現在は、これまでに検討された内容について、シンポジウム（11/29に開催）参加者及び豊田市住民へのアンケートを実施し意見聴取している段階です。
- 今後は、収集した市民意見を反映するとともに委員会において再度検討・整理を行い、平成28年3月末にプランの策定を予定しています。

##### ■今後のスケジュールについて

- 次回地域部会（川部会）は、1月18日（月）13:30より実施します。

## 2.意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

### (1) 白浜地区モニタリング調査結果について

(・意見 ▶回答)

**白浜地区モニタリング調査結果について大同大学鷺見先生および吉川さんより報告があり、意見交換を行いました。**

- ・白浜工区の勾配変化の原因は何か。洗掘傾向はこれからも続くと思うが、もっと洗掘傾向を減らそうとする場合、ワンドを広げて上下流繋げてしまうと負荷が減るのではないか。(山本)
  - ▶ 勾配変化はカーブと元の川幅が原因であると考えられる。現状では、土砂の堆積・洗掘の原因が不明なため、iRIC による計算を実施することにより出水時の土砂の動きを把握していく予定である。(鷺見)
- ・以前漁協の方と話したとき、久澄橋直下の瀬が近年なくなったと聞いた。(内田)
  - ▶ 測量成果をみると瀬が下がっている状況はみとめられる。白浜工区により横断には広がっているため、大きい出水の時に下流に引っ張られる作用があるのではないかとといった見方があるのは確かである。ただし、これは大きい出水の時の話である。(鷺見)
- ・碓さん達が今やっている区域を公園にしたい。夏に徹夜で魚釣り大会をやっている。それがうまくなるようになるのか。ワンド内には魚がいたり、いなかったりするのか。(松井)
  - ▶ いるときは大量にいるが、同じ時期でも魚の量に多寡がある。下流の堰はゲート操作されているので、水位変動は流量が増えなければ基本的に水位変動は無い。流量が増えても基本的な条件変化は無いはずなのに、魚の量に多寡があることが不思議である。そこはまだわからない。(鷺見)
- ・今後の課題の中で iRIC を使って河床変動のシミュレーションをしてみるということだった。この計画で、豊田市と連携を取って久澄橋直下の瀬に分散型落差工を入れて瀬を嵩上げた場合に河床変動がおこるか検討することはできるのか。(内田)
  - ▶ 分散型落差工のスケールは非常に小さいと思う。この小さいスケールを今シミュレーションでやっているスケールの中に正確におさめることは難しい。(鷺見)
  - ▶ 分散型落差工、いわゆる瀬の再生については橋梁管理者ができる部分の一部分で実施する予定である。河川改修による河道掘削にあわせて施工することになると思う。現時点ではやろうとしているのは一部である。(事務局)
- ・資料⑥図5の出水ピーク 39.0k がわずかに盛り上がっているのはなぜか。(野田)
  - ▶ 39.0k の下流で一度浅くなる。39.0k のところは通りやすいが、その下流は通り難くなる。しかも横に湾曲しているため、一旦抵抗の大きい部分ができるからではないかと考えている。(鷺見)

### (2) 豊田市矢作川河川環境活性化プランについて

**豊田市矢作川河川環境活性化プランについて矢作川研究所早川所長および内田事務局長より説明があり、意見交換を行いました。**

- ・先日のシンポジウムで豊田市では過去より気温が上がっていると聞いた。(松井)
  - ▶ 今年の8月8日に気温調査を行った。一番高いところで37度あった。どちらかという豊田市の南西部は高い。夏はフェーン現象が起きる暖かい風が南西から吹き込むため、豊田市は南西から温まってくるのが分かった。(早川)
- ・川の高水敷の温度と堤防の上あるいは市街地側の温度を横断的に気温計測されている事例はあるのか。広大な高水敷のグラウンドが川風に対してどう機能しているのか事例があればいいと思った。(鷺見)
  - ▶ 以前にそういう事に着目して気温測定したことはない。今後の課題としていきたい。(早川)
- ・人と生き物が共生する河畔という目標がとても難しいと思った。(本守)
- ・岡崎市あたりの矢作川を見ていると、遊歩道やサイクリングロードは必要だと思うが、水辺の生き物は安心していられるところはない。あるときには人間は端っこを通り、人間に必要な部分と生き物に必要な部分はメリハリをつけて残す配慮が必要であると思う。(高橋)
  - ▶ 川部会でそもそも久澄橋地区をモデル設定したのがそれだと思う。どこがそういった形に適しているのか広げて色々な所で見ていかなければいけない。(光岡)
  - ▶ 基本スタンスはどこも同じにするということではなく、生き物のために残す部分と人間が入りやすくする部分のメリハリをつける方針は再確認しようと思う。(内田)

### (3) 振り返り

**よかったと思うこと：**白浜工区の調査結果がまとめて聞けた。/鷺見先生たちの成果が一役立った。/資料がA3版で(カラー)で見やすかった。/豊田市矢作川河川環境活性化プランが聞けてよかった。

**よくなかったと思うこと：**前回の矢作古川頭首工の訪問の反省会、討論会はなかった。/やや時間不足。

**今後取り組んでいきたい活動など：**県にも参加いただきたい。/矢作古川分派施設魚の遡上が不可能かと思えるので、精しい報告をお願いしたい。/活性化プランとの議論。

**質問など：**懇談会資料のHP掲載をお願いしたい。

## 今後の流域圏懇談会の予定

### ■第7回地域部会(川部会)

日時：平成28年1月18日(月)13:30~



### ◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野  
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

\*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

